

在ペナン日本国総領事・町田信也です。本年8月の総領事（館）活動報告をいたします。これら活動の一部については、別途総領事X、総領事館HP及びFBでも紹介しておりますので、併せ御笑覧ください。

さて、世界情勢につきましては、各国の関税措置や地政学的緊張によって国際貿易の先行きには不透明感が残る一方、AI関連電子部品の貿易拡大が世界貿易を下支えしており、半導体関連企業が集積するペナンにも大きな影響を及ぼしています。また、中東における紛争とホルムズ海峡をめぐる緊張は、原油価格、海上輸送及び物価を通じ、エネルギー輸入国である日本やマレーシアの経済に影響を及ぼしています。さらに、AI関連投資が世界経済及び半導体需要を押し上げる一方、記録的な猛暑、森林火災、洪水等が各地で発生しており、技術革新と気候変動への対応が同時に求められています。

日本外交につきましては、8月17日から22日まで、茂木外務大臣はサウジアラビア及びオマーンを訪問し、中東情勢の沈静化、ホルムズ海峡及びバブ・エル・マンドブ海峡の自由で安全な航行の確保、エネルギー安全保障並びに二国間関係の強化について協議しました。また、8月28日、日本政府は、インドネシア・カリマンタン島で発生した森林火災を受け、消火活動に当たる国際緊急援助隊・自衛隊部隊の派遣を決定し、東南アジアにおける災害対応への貢献を示しました。さらに、茂木外務大臣は8月29日からトルクメニスタン、スロバキア、オーストリア及びモンゴルを訪問し、資源・エネルギー、AI、連結性及び国際情勢をめぐる連携強化に取り組みました。

日本経済（政策）につきましては、7月の日本の輸出額は前年同月比23.2%増の1兆5,118億円、輸入額は27.8%増の1兆2,463億円となり、貿易収支は6,345億円の赤字となりました。また、2026年4～6月期の実質国内総生産は前期比0.3%増となり、日本経済は緩やかな成長を維持したものの、関税措置や中東情勢等による下振れリスクが残っています。7月の全国消費者物価指数は前年同月比1.9%上昇し、生鮮食品を除く指数も1.8%上昇するなど、物価上昇が日本の家計や海外在留邦人の帰国後の生活設計にも影響しています。

マレーシア情勢につきましては、マレーシア経済は、堅調な国内需要と輸出に支えられ、2026年4～6月期に前年同期比6.0%、上半期全体では5.7%の成長を記録しました。一方、エネルギー価格や生活費の上昇を踏まえ、マレーシア政府は、補助対象燃料の購入枠拡大、小規模事業者への支援及び電子インボイス制度の負担軽減策を発表しました。また、4～6月期の総合インフレ率は1.9%となり、マレーシア中央銀行は、国内需要、中東情勢、エネルギー価格及びリング相場の動向を引き続き注視しています。

ペナン情勢につきましては、ペナン州及びケダ州クリムでは、世界的なA I・データセンター需要を背景に、半導体、電気・電子、自動化及び精密機械産業の高度化と新規投資が進んでいます。また、ペナン州では、州初の都市鉄道となるムティアラ線をはじめ、空港、水供給、道路及び新たな工業用地に関するインフラ整備が進められており、在留邦人の生活や日系企業の事業環境にも影響を及ぼします。こうした産業の拡大に伴い、技術人材の確保と育成が重要な課題となっており、企業、大学、職業教育機関及び州政府による産学連携が進められています。

我々日本人としては、今後とも、世界情勢、マレーシア情勢及びペナン情勢に対して目を見張り、耳を立てるようにして、日本人、日本国民及び日本企業の利益を守るようにしていかなければならないと思っています。

さて、在ペナン総領事館は、日本人社会との関係構築／領事業務／日本企業支援、日本の存在感広報のための広報文化・学術交流事業の実施・支援、当地政治・経済・社会事情の把握を業務の3本柱とし、また、そのための業務体制の充実を旨としております。

ペナン外への「出張」等につきましては、8月5日、ケダ州クリムに出張し、PKTロジスティクス社及びイノコム社の施設を見学しました。なお、当館館員も必要に応じて管内へのお出張を行っています。

政治・行政・経済・外交面では、

8月1日（土）、ペナン港湾委員会（PPC）創立70周年記念式典に出席しました。



式典は、ヨー・スーン・ヒン同委員会委員長の主催により、ラムリ・ナタリブ・ペナン州長を主賓として開催され、マレーシア政府及びペナン州政府関係者、外交団、港湾・海運業界並びに経済界の代表等が出席しました。式典では、PPCの70年にわたる歩みと今後の展望が紹介されるとともに、地域社会への貢献の一環として慈善活動も実施されました。私も政府、港

湾・海運業界及び経済界の関係者等と意見を交わし、PPCの取組並びに北部マレーシアの港湾・物流分野の現状について理解を深めました。総領事館としても、港湾・物流分野を含む日本とペナンとの経済交流及び人的交流を促進していきたいと思っています。

8月5日（水）、ケダ州クリムに所在するイノコム（Inokom）社を訪問し、スイ・ケン・ファト同社マネージング・ディレクター、増岡隆弘 Mazda Malaysia 社長、マイケ

ル・ティオPKTロジスティクス・グループ最高経営責任者ほか関係者から、イノコム社及びマツダ関係事業について説明を受けました。イノコム社は複数の自動車ブランドの車両組立てを行っており、マツダ車についても現地企業と連携しながら生産しています。マツダ車の塗装、車体製造、



最終組立て並びに完成車の検査・出荷に関する各施設を視察し、マレーシア人従業員が日本から導入された技術、「改善」及び「からくり改善」等の手法を活用しながら、生産性及び品質の向上に取り組んでいる様子について説明を受けました。日本企業とマレーシア企業との協力が、現地人材の育成及び自動車関連産業の発展につながっていることへの理解を深めました。

同日、ケダ州クリムに所在するPKTロジスティクス社の施設を訪問し、マイケル・テ



ィオ会長兼社長をはじめとする同社関係者から、同社の物流事業及び今後の事業展開について説明を受けました。同社は、BMW、起亜及びマツダ等の自動車部品を集約し、生産車種や生産ロットに応じて必要な部品を取りそろえ、生産ラインへジャスト・イン・タイムで供給しています。また、ラムリサーチ等の半導体関連企業にも物流サービスを提供し、

クリム・ハイテクパーク及びペナンを中心とする北部マレーシアの製造業を支えています。外国企業に対しては、倉庫及び事務所の提供に加え、研修及び人材確保等を含む幅広い支援を行なっているとの説明もありました。日本企業、特に高い技術力を有する中小企業の北部マレーシア進出を促進する上で、現地企業及び関係機関による支援が重要であるとの認識を共有しました。

8月6日(木)、スブラン・ジャヤにおいて、イズハル・シャー・ビン・ダト・アリ

フ・シャー・ペナン州議会議員を表敬し、ペナン州及びスブラン・ジャヤの地域発展並びに今後の日・ペナン関係について意見交換しました。同議員からは、スブラン・ジャヤにおける地域社会の発展、中小・零細事業者への支援、人材の技能向上、公共交通及び歩行環境の改善等について説明がありました。また、



ペナンの今後の経済発展に向けて、大規模産業のみならず、地元の中小企業及び起業家を育成することが重要であるとの意見が示されました。日本の規律、文化、教育及び産業発展の経験への関心も示され、スブラン・ジャヤにおける日本文化紹介行事及び青少年

交流等の可能性について話し合いました。

8月7日（金）、マレーシア中小企業協会（SAMENTA）北部地域のカルビン・ク



ワン会長、セルビン・タン副会長、ヘンリー・タイ名誉書記、チュー・カイ・ムン全国委員会会員委員長等と意見交換しました。1986年にペナンで設立されたSAMENTAは、製造、サービス、物流、食品及びテクノロジー等の幅広い分野で中小企業を支援しています。日本企業がペナン及び北部マレー

シアの産業発展、雇用、人材育成及びサプライチェーン形成に果たしてきた役割、日本式の品質管理、リーン・マネジメント及び改善について意見を交わしました。また、スマート製造、精密加工、半導体及びAI等の分野における日本企業と地場中小企業とのビジネスマッチング、技術交流及び企業訪問等の可能性についても協議しました。SAMENTAからは、全国50都市で展開する「Hyperlocal AI Fest」等、中小企業によるAIの実践的活用を促進する取組が紹介されました。

8月12日（水）、ペナンを拠点とするファクトリー・オートメーション企業、グレートック（Greatech Technology）社を訪問し、タ

ン・エン・キー最高経営責任者をはじめとする同社関係者と意見交換しました。同社から、各種産業向け自動化設備の設計・製造をはじめとする事業の概要、技術力の向上に向けた取組、人材育成及び海外における事業展開等について説明を受けました。ペナンの製造業を更に高度化する上での人材及び技術の重要性、日本企業との連携並びに日本とマレーシアの大学生を対象とするインター



ンシップ等を通じた人材交流の可能性について話し合いました。ペナンを拠点に世界の製造業を支える同社の取組に敬意を表するとともに、日本企業及び大学等との連携促進に努めたい旨述べました。

8月14日（金）、ルーカス・タン・ジアン・ミン PDX2026 実行委員長及びケニー・ウ



ン Inspiren Network 社共同創業者兼最高経営責任者の表

敬を受けました。先方から、PDX2026の成果及びPDX2027に向けた準備状況、複数の大学から約300名の学生参加を目指すAIハッカソン等の構想について説明がありました。また、中小企業へのAI導入に当たっては、知識及び資金の不足が課題であり、AIの具体的な活用を収益向上につなげることが重要であるとの説明

がありました。私からは、日本のＡＩ政策並びに日本とペナンとの間で進みつつあるＡＩ、半導体及び自動化分野の協力について紹介し、日本企業及び大学等との連携可能性について意見を交わしました。

８月１７日（月）、PwC マレーシアのパートナーであり、マレーシア国際商工会議所（M I C C I）北部支部副会頭を務めるリム・ハッキアム氏及び PwC マレーシアのパートナー兼日系企業統括責任者である杉山雄一氏と意見交換しました。マレーシア及びペナンにおける日本企業の活動と投資環境、電気・電子及び半導体産業をはじめとするペナン経済の発展、地場企業と日本企業との連携等について幅広く意見を交わしました。また、日本企業を取り巻く事業環境の変化及び今後期待される新たな協力分野についても意見交換しました。ペナンの産業集積、人材及び国際的ネットワーク等の強みを活用し、より高付加価値な産業を育成する可能性並びに日本の中小企業とペナンの企業・経済団体との交流を促進する重要性について認識を共有しました。



８月２０日（木）、ペナン州バヤン・ルパスに所在するイナリ（Inari Amertron）社を訪問し、ラウ・キーン・チョン・グループ最高経営責任者兼執行取締役等と意見交換するとともに、製造施設を視察しました。同社は、半導体の組立て・検査を受託するＯＳＡＴを中核事業とし、無線周波数、光通信及びセンサー等の半導体関連分野で事業を展開しています。ＡＩ及びデータセンター需要を背景として拡大する光通信・フォトニクス事業、半導体製造の自動化、将来必要となる人材、地場企業と連携した装置及び生産ソリューションの開発等について説明を受けました。工場では、無線周波数及び光通信製品の組立て・検査工程、各種検査装置並びに顧客仕様に合わせた自動化設備を視察しました。私からは、製造装置、材料、自動化、水関連技術、人材育成及び産学連携等において、日本企業及び大学が貢献できる可能性を紹介しました。

同日、新たにペナン州警察本部長に就任したデニス・リム本部長を表敬しました。私から、ペナン州に所在する約１２０社の日本企業及び居住する約３，０００人の日本人の安全・安心のため、引き続き州警察本部との関係を強化したい旨述べました。先方からも、日本人社会の安全のために今後も協力していきたいとの意向が示され、更なる協力関係を構築していくことで一致しました。



8月23日（日）、ペナン・ホテル経営者協会創立69周年記念行事に出席しました。



同協会は1957年に設立され、長年にわたりペナンのホテル・観光産業の発展に貢献してきました。ウォン・ホン・ワイ・ペナン州観光・創造経済担当EXCOは、ホテル産業がジョージタウン及びバトゥ・フェリンギのみならず、ペナン島南部及びセベラン・プライにも広がっていること等に触れ、当地観光産業の更なる発展への期待を表明しました。また、

チョウ・コン・ヨウ・ペナン州首席大臣は、今後の観光振興においては、単に観光客数を増やすだけでなく、滞在期間、当地での体験及び消費等、一人一人の観光客が地域経済にもたらす「価値」を高めることが重要であると述べました。私もホテル、観光、航空及び医療観光等の業界関係者と、ペナンへの観光客誘致、国際航空路線の拡充等を含む今後の観光振興について幅広く意見交換しました。

8月26日（水）、ジャフリ・ビン・アブドゥル・ジャリル・ペナン州官房長を表敬

し、同官房長の就任に祝意を伝えるとともに、ペナン州の今後の発展及び日本とペナンとの関係について幅広く意見交換しました。ペナン州における産業の高度化、半導体をはじめとする先端産業の発展、インフラ整備、人材育成及び大学間交流等について話し合いました。ジャフリ官房長からは、自身のこれまでの日本との関わり及び最近の訪日についても紹介があり、日本とペナンとの経済、教育及び人的交流等を更に発展させることの重要性について意見が交わされました。私からは、日本人の安全・安心及び日本企業の安定的な操業環境の確保に努めるとともに、産学連携、人材育成及び文化交流等を含め、両者の関係を一層発展させたい旨述べました。



今後とも、当地行政機関及び経済界との関係を深め、また、様々な人や組織をつなげることによって、当地の日本人・日本企業の皆様等の活動へのヒントをもたらすことができたら良いと思っています。

日本人社会・日本企業との関係では、

8月26日（水）、定例のペナン日本人会理事会に出席しました。この理事会では、日本人会及び日本人学校の魅力向上等について活発な意見が交わされました。

8月27日（木）、外務省による在留邦人数調査の一環として、在留届に登録された滞在期間が超過している方及び滞在期間が未登録の方に対し、9月1日以降、在留状況を確認するメールが配信されることを案内しました。対象となる方に対し、メールに記載され

た方法により、滞在期間の延長又は帰国・転出の手続を行うようお願いするとともに、当館から電話又はメール等で在留状況を確認する場合があることについても周知しました。

8月28日（金）、ペナン州を含むマレーシア国内でヘイズ（煙害）の影響が広がっていることを受け、注意喚起をHPに掲載しました。ヘイズの原因、大気汚染指数（API）の見方、咳、呼吸困難、上気道炎等の健康被害の可能性について説明するとともに、特に高齢者、子供、呼吸器疾患・心疾患・アレルギーのある方等に注意を呼びかけました。また、屋外活動を減らすこと、外出時にマスクを着用すること、うがい、手洗い及び洗顔を行うこと、室内環境を整えること並びに症状がある場合には医療機関を受診すること等を案内しました。

同日、大成建設株式会社の栗栖クアラルンプール営業所長の来訪を受け、マレーシアの



経済情勢及び当地におけるビジネス環境等について幅広く意見交換しました。総領事館としては、今後とも独自の人脈形成及び情報収集を通じ、日本企業の当地における事業活動及びビジネス機会の拡大に向け、必要な支援に努めていきたいと思

います。領事事務をはじめとした日本人社会へのサービスは、総領事館業務の「一丁目一番地」です。総領事館としては、今後とも在留邦人及び日本人旅行者への正確で迅速な情報提供並びに安全・安心の確保に、微力ながらも全力を尽くしていきたいと思

います。

文化交流・報道・学術交流関係では、

8月3日（月）、ローズ・チャリティーズ・マレーシアのヴィンス・ヨー・チャイ・リン会長、同団体のパトロンであるケビン・リー・リン・チャイ氏ほか関係者の来訪を受けました。同団体から、高齢者を中心とする会員向けの健康講座、文化・学習活動、交流事業及び生活困窮者への支援等、幅広い活動について説明を受けました。また、当地における慈善事業の実情、支援を真に必要とする人々を把握する方法及び持続的な慈善活動の在り方等について意見交換しました。先方からは、当地に在住・駐在する日本人及び日本関係団体と、文化活動やボランティア活動等を通じた交流を進めたいとの希望が示されました。総領事館としても、日本文化交流と地域社会への貢献を組み合わせたい具体的な連携の可能性を探っていきたいと思



8月4日（火）、ペナン・デジタル・ライブラリーで開催された第19回世界こども俳

句コンテスト・マレーシア表彰式に出席しました。式典には、日本航空、JAL財団、教



育関係者、教員、保護者及び受賞者が参加しました。本年は「音」をテーマとして、マレーシア国内の19校及び個人参加者から計260作品が寄せられました。挨拶では、日本航空及びJAL財団による長年の取組に敬意を表するとともに、限られた言葉で風景、音及び感情を表す俳句の歴史と魅力について述べました。また、15名の受賞者のうち14名がペナンから

選ばれたことに触れ、全ての受賞者にお祝いを申し上げます。マレー、華人、インドをはじめとする多様な文化と言語が共存するマレーシアの若い世代が、俳句を通じて新たな表現を生み出していることを嬉しく思いました。

8月5日（水）、公益社団法人日本青年会議所が実施する「親子で未来をひらく国際発見ラボ」の一環としてペナンを訪問した親子訪問団に同行し、ウォン・ホン・ワイ・ペナン州観光・創造経済担当EXCOを表敬しました。同事業は、日本全国の親子がペナンを訪問し、先進産業、学校及び地域社会との交流を通じて国際感覚を育むことを目的とするものです。ウォンEXCOからは、1970年代以降の日本企業によるペナンへの投資、日本人コミュニティの地域経済への貢献、東方政策を通じた日本留学経験者の活躍、日本企業から学んだ「5S」及び「改善」の定着等について説明がありました。また、ペナン盆踊り及びよさこいパレード等、日本文化を通じた交流の発展についても意見を交わしました。今回の訪問が、日本とペナンとの将来の経済・文化・人的交流を支える基盤となることへの期待を表明しました。



8月7日（金）、芝浦工業大学関係者等の来訪を受け、日本及びマレーシアにおける工



学教育、人材育成及び産学連携等について意見交換しました。両国の産業界が必要とする理工系人材の育成、教育に実務経験を取り入れることの重要性及び国際的な視野を持つ学生を育てるための取組等について話し合いました。また、日本とマレーシアの大学及び企業が、共同研究、人材交流及び実践的教育を通じ、それぞれの知見と経験を結び付ける可能性についても意見を交わしました。大学、企業及び

関係機関の交流が、将来世代の教育及び人材育成に貢献することへの期待を表明しまし

た。

8月8日（土）、ペナン市内のマジェスティック・シアターにおいて、「ジョージタウン・フェスティバル2026」の一環として上演された「Shakespeare Meets NOH:

DESDEMONA」を鑑賞しました。本作は、シェイクスピアの悲劇「オセロー」を、日本の伝統芸能である能の所作、謡、音楽及び舞台表現を取り入れて再構成した作品です。国際交流基金クララルプール日本文化センター等の協力・支援の下、日本とマレーシアの芸術家が約5年に



わたり対話と試行錯誤を重ね、日本語、英語、マレー語及び中国語を用いる多文化・多言語の舞台作品を作り上げました。終演後には、監督

の今井尋也氏をはじめ、日馬双方の出演者及び関係者と懇談し、異なる伝統、感性及び表現を一つの舞台作品へと昇華させた長年の努力に敬意を表しました。

8月11日（火）、名古屋市立西陵高等学校、名古屋市立名古屋商業高等学校及び名古屋市立若宮商業高等学校の生徒19名並びに引率教員2名の訪問を受けました。私から、



在留邦人及び日本企業への支援をはじめとする総領事館の業務並びに日本と北部マレーシアとの経済・文化・青少年・教育交流について説明しました。また、マレーシアの多民族、多言語及び多宗教社

会に触れ、日本との違いや疑問に感じたことを大切にしながら、現地の人々と積極的に交流するよう伝えました。当館警備対策官からは、窃盗及び交通事故等に関する安全対策を説明しました。質疑応答では、総領事館が重視する交流事業、日本企業が抱える課題への支援、交通及び環境問題等について質問がありました。

同日、ペラ州のトゥンク・アブドゥル・ラーマン大学（UTAR）において8月22日に開催される日本文化関連イベントについて、総領事館ホームページを通じて案内しまし

た。同イベントでは、浴衣の着付け、書道、忍者ワークショップ、日本の遊び及び歌唱公演等が予定されており、北部マレーシアにおける日本文化への関心及び日本・マレーシア間の交流促進につながることを期待しています。

8月16日（日）、ペナン市内の旧バス車庫を活用した文化・芸術拠点、ヒン・バス・デポ（Hin Bus Depot）内のCOEX@KilangBesiで開催された「Penang Puppet Festival 2026ー

BERBUNGA」の主要公演「Mekar Raya:

Traditional Potehi Performance Night」を鑑賞

しました。同公演では、中国福建に源流を持つ「布袋戲」がアジア各地へ伝わり、それぞれの歴史、言語及び文化の影響を受けて独自に発展してきた姿が紹介され、マレー



シア、インドネシア、シンガポール及び台湾の団体が特色ある公演を披露しました。日本とペナンの布袋戲関係者との間でも、2017年の東京公演及び2023年の日本の江戸系あやつり人形団体との共同公演等、交流が積み重ねられています。公演後には、マーカス・リム・フェスティバル・ディレクター及びマレーシア科学大学のタン・スーイ・ベン名誉教授等と、次世代への継承、教育活動、アジア域内の連携及び日本との交流について意見交換しました。

8月19日（水）、マレーシア科学大学（USM）中部大学センターが企画した約10日間の研修プログラムに参加する摂南大学及び中部大学の学生の皆さんが、総領事館を訪



問しました。私から、総領事館の役割、日本とマレーシア、特にペナンを中心とする北部マレーシアとの関係、当地における日本企業の活動及び文化・教育交流等について説明しました。また、ペナン滞在中、現地の学生及び市民と積極的に交流し、

日本との違いや疑問に感じたことを大切にしながら、多くの気付きを得てほしいと伝えました。当館警備対策官からは、スリ、置き引き、ひったくり及び交通事故等への注意について説明しました。質疑応答では、当地における日本文化、交通事情及び日本の在外公館の活動等について意見を交わしました。

8月21日（金）、日本教育フェアに参加するためペナンを訪問したオイスカ浜松国際

高等学校の村松喜一郎副校長の表敬を受けました。同校における外国人生徒・留学生の受入れ、日本語教育、寮生活及び卒業後の日本の大学等への進学について説明を受けました。また、マレーシアからの留学生の受入れ拡大、短期研修及び学校間交流等を通じ、日本の高校で学ぶ機会を広げる可能性について意見交換しました。マレーシアから日本の高校への留学は、大学段階の日本留学と比べてまだ一般的ではないものの、短期研修及び学校間交流等を通じて、日本の高校教育の魅力を知ってもらうことが重要である旨述べました。



同日、翌22日にペナンで開催される「JAGAM Japan Education Fair 2026」に先立

ち、総領事公邸において、日本及びマレーシアの教育関係者を招いたネットワーキング会



合を主催しました。日本側から大学、高校、専門学校及び日本語学校等の関係者、マレーシア側から大学及び中等教育機関の関係者並びにマレーシア元留日学生協会（JAGAM）及び同北部支部の関係者等が参加しました。挨拶では、日本からペナ

ンを訪れた幅広い教育機関と当地の大学・中等教育機関との間に新たなつながりを作り、今後の具体的な交流につなげることを目的として会合を開催した旨述べました。会合では、日本留学、学生交流、進学、共同研究及び大学・学校間連携等について活発な意見交換が行われ、日本人学生のマレーシア留学を含む双方向の教育交流を一層進める必要性についても意見が交わされました。

8月22日（土）、JAGAM主催の「JAGAM Japan Education Fair 2026」に出席

し、開会式で挨拶しました。同フェアには、日本から国公立大学をはじめ、高等専門学校、専門学校、日本語学校及び高校等、幅広い教育機関が参加し、多くの学生及び保護者が、進学、奨学金、学生生活及び将来のキャリア等について説明を受けました。また、日本政府（文部科学省）奨学金及び日本学生支援機構（JASO）による留学支援等についても紹介されました。私からは、長年にわたり日本留学及び日馬間の教育・人的交流を促進してきたJAGAM及び同北部支部の取組に敬意を表するとともに、日本留学には学生一人一人の関心や将来の希望に応じた幅広い選択肢があることを述べました。また、日本留学経験者が将来、日本とマレーシアを結ぶ新たな架け橋となることへの期待を表明しました。



8月27日（木）、国際交流基金クアラルンプール日本文化センターが主催する「日本映画祭2026」について、総領事館ホームページを通じて案内しました。同映画祭はマレーシア各地で開催され、ペナンでは9月17日から20日までGSCガーニー・プラザにおいて、日本映画が英語字幕付きで上映される予定です。日本の社会、文化及び人々の暮らしを映画を通じて紹介する同映画祭が、日本への理解と関心を一層深める機会となることを期待しています。

8月29日（土）、テロパハン（Teluk Bahang）において開催されたブルーサンタ・マレーシア（Blue Santa Malaysia）と MMI Care Association との協力覚書（MOU）署名式に出席し、署名を見届けました。今回のMOUは、環境保全活動を通じた若者の意識向上



及び社会参加の促進を目的とするものです。MMI Care Association は、若いインド系マレーシア女性のエンパワーメント及び教育支援等に取り組み、Miss Malaysia Indian Global を運営しています。MOUにより、同プログラムの参加者が日本発祥の海洋環境保全活動であるブルーサンタ・マレーシアの活動に参加し、海洋環境保全及び持続可能性について理解を深めることが期待されています。署名式後には海岸清掃活動を視察するとともに、MMI Care Association 関係者及びマレーシア科学大学（USM）海洋・沿岸研究センター（CEMACS）所長と、環境保全活動を通じた若者の社会参加並びに日本との交流・協力の可能性について意見交換しました。

同日、ペナン市内の商業施設ガーニー・ウォークで開催された「ブンカ・フェスティバル2026」に出席し、ウォン・ホン・ワイ・ペナン州観光・創造経済担当EXCOとともに開会式で挨拶しました。私からは、日本の学校における「文化祭」を紹介するとともに、多様な文化が共存するペナンで日本文化が親しまれていることへの感謝を述べました。ウォンEXCOは、日本との観光交流の更なる拡大への期待を示すととも



に、日本とペナンを結ぶ航空便について、チャーター便を含め、その可能性を検討している旨述べました。会場では、合気道の実演、生徒による合唱、音楽公演、痛車（いたしゃ）、生け花、抹茶、コスプレ、日本食及び日本関連商品の展示・販売等が行われ、当館も文化交流ブースを設け、折紙及び切紙のワークショップ並びに日本文化紹介品の展示を行いました。

8月30日（日）、ペナン市内のBSG Galleriaにおいて、ペナン・フォワード・スポーツ・クラブが主催した「TKR Merdeka Run 2026」の完走式典に出席しました。同大会は、翌31日のマレーシア第69回独立記念日を前に開催されたもので、約3,000人が参加しました。式典には、スティーブン・シム起業家・協同組合開発大臣、ダニエル・グイ・ペナン州青年・スポーツ・保健担当EXCO、タン・クン・ハイ・ペナン中華大会堂会長、トム・クー同クラブ顧問及びリム・チュー・ファイ同クラブ会長をはじめ、政府、スポーツ団体及び地域社会の関係者等が出席しました。式典では、異なる年齢、人種、職業及び背景を持つ人々をスポーツが結び付け、健康で団結した地域社会を築くことの重要性が強調されました。私も主催者及び参加者と交流し、マレーシアの独立記念日を祝いました。



総領事館としては、今後とも、日本文化紹介及び日本・マレーシア交流促進のために心を尽くす所存です。

8月は、経済、教育、文化、観光、環境、スポーツ及び在留邦人の安全等、幅広い分野で多くの方々と交流し、日本とペナンをはじめとする北部マレーシアとの関係を更に深める機会となりました。2027年の日・マレーシア外交関係樹立70周年及び在ペナン日本国総領事館設置決定50周年も見据え、総領事館としては、今後とも地域の皆様及び関係機関・団体との連携を一層深め、経済、教育、文化及び人的交流の更なる発展に取り組んでいきたいと思います。

今後も、日本とマレーシア北部6州との間をより良くつなぐことによって、日本人の皆様が安心・安全に、誇りを持って、意義深い生活・活動をされるよう、微力ながらも全力を尽くす所存です。今後とも、御指導・御鞭撻をお願いいたします。

※以上の見解は、小官個人のものです。